

第1学年2組 国語科学習指導案

授業者 白木 摂津子(1 - 2教室)

1 単元名 あるけ あるけ

2 単元の見積

- (1) 声に出したり，想像をふくらませたりしながら，楽しく詩を読むことができる。
(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 繰り返しの言葉，リズム，言葉の響きなどを考えながら声に出して読むことができる。
(読む能力)
- (3) 平仮名を正しく，はっきりした発音で読むことができる。
(言語に関する知識・理解)

3 単元について

この教材は実際に声に出して歌いながら歩くことも可能なリズム感のある詩である。声を出して元気に音読し，言葉のリズムを楽しみながらイメージをふくらませ，詩の世界に浸ることを大切にしたい。また，地球の裏側にいる自分たちと同じ元気な子どもたちに思いを込めたり，音のおもしろさに触れたりすることができる。挿絵を見て話合ったり，挿絵に描かれていない地球の裏側の絵を描いたりすることでいろいろな着想を引き出せる教材でもある。

一連と二連は同じ音律(リズム)の構成になっており，二つの連の中の三行は，七，七，七になっていて，日本の歌の基本の音律である七音の繰り返しである。この中三行を「どきどん どきどん」の太鼓の音と「あるけ あるけ」が挟んでいる。流れるようなリズムを力強い三行が挟んでいるので，児童が調子よく音読し，楽しむことができる教材である。

詩の群読では，以下のような効果が挙げられる。お互いに声を出し合い，聞き合い，響き合うことの楽しさ，美しさを味わうことができる。作品の持つ響きやリズム，内容的価値に気づくことができる。どのように表現を工夫して読むかを検討することを通して，理解力，表現力を培うことができる。身体表現を含めた自己表現力を培うことができる。学習過程を通して協調性，協力性を培うことができる。

ここではみんなで声を合わせて読むことの楽しさを味わったり，グループで音読を発表しあったりすることでより充実した学習になるように工夫することをめざしていく。

4 児童について(32名)

児童たちはひらがなの読み書きを終了し，漢字，カタカナの学習も進んでおり，意欲を持って国語の学習に取り組んでいる。入学以来，時間のある時は「じゅげむ」などの言葉遊び，手遊びなどを意識的に取り入れることでスムーズに小学校の国語学習に取り組めるよう心がけてきた。また，長い物語などは少しずつ教師が読み聞かせをし，お話の世界に浸ることの楽しさも味わわせてきた。読書タイムに地域のボランティアの方に読み聞かせをしていただいたことも効果的だったようである。

児童たちはこれまで「語や文としてのまとまりや内容，響きなどについて考えながら声に出して読む」ことに関して繰り返し学習してきた。「おむすびころりん」「大きなかぶ」では繰り返しの言葉や文章のリズムを感じながら音読してきた。なかなか人前では声が出せない子も同じ文章を繰り返し読むことで，概ね音読できるようになってきている。

しかし、「自分の思いを伝える」ことに関しては多くの子が大きな声ではっきり話せるが、中には発音が不明瞭だったり、恥ずかしさで口ごもってしまったりという子がいる。また、「聞く」ことに関しては興味のある話や読み聞かせでは集中して聞ける子が多いが、友達の発表やスピーチなどを共感的に聞きとろうとする態度が身につけていない児童もいる。

5 指導について

表現力の育成について

マイクラス（金曜日の朝の活動）や国語の授業のはじめの時間などを利用して音読集に親しんでいる。短い言葉の中にリズムや気持ちが凝縮された詩は繰り返し読むことができ、読み方を工夫することによってさまざまに楽しむことができる。読み合ったり、聞き合ったりしながら子どもたちと表現を工夫して楽しんでいる。子どもたちは基本的に声に出して読むことが大好きである。音読練習の形態を工夫して、声に出して読むことの抵抗を少なくしたり、励ましたりすることで自信を持って読めるようにしている。

一学期から帰りの会の時間を利用してスピーチを行っている。テーマは「学校であった楽しかったこと」が中心で、毎日グループ4人ぐらいずつ話していった。最初は「きょう、わたしは をしてたのしかったです。」というように教師が話し方を提示していった。最初はうまく話せなかった子も、興味をもって話を聞くうちに、友達の発表を真似して話すことができるようになってきた。さらに「きょう、 ちゃんがこんな親切なことをしてくれたよ。」と話す子も出てきて、いいこと探しがテーマになる日もでてきた。

二学期からは「きょうここにのこったこと」でスピーチをしている。どんなことをして、どう思ったかなども付け加えるように指導している。また、一週間のうちにクラス全員がスピーチできるように呼びかけることによって、お互いに譲り合う姿が見られるようになり、もともと人前で話すことが苦手な子も、話すことは抵抗がなくなりつつある。

また、聞くことにおいては、最後まで聞くこと 必ず相手の方を見て、まなざしで聞くことを重点的に指導している。このことは、帰りの会のスピーチだけではなく、他の学習の中でも意識して取り組んでいる。音読やスピーチの活動を通して、相手の考えや思いを理解し、自分の意志を伝え、お互いに理解しあおうとする態度、すなわちコミュニケーション能力を育てることができると考えている。「話すことは楽しいこと」だということをつくり堪能し、自分にもできる「易しい」活動であることを十分に感じ取らせてやりたい。

また、「あいさつ」や「返事」も自然な形で定着できるように機会をとらえて指導してきた。人とのコミュニケーションの素地を低学年から培っていきたいと考えている。

さらに表現力を高めるために、体を使って表現する機会を多く持つようにしている。リトミックを体育の中に取り入れたり、音楽の時間に太鼓やピアノのリズムに合わせて自分の思いを表現することの楽しさを味わわせてきた。児童はリズムにのって動くことが大好きで、思い切り体を動かしてみんなと表現することの喜びを感じているようだ。周りの子の様子を見てまねをしたり、人に教えたりという活動が他者を思いやる活動にもつながっていくように感じている。

みんなの前で自己を表出することを繰り返し楽しみ、自分の存在意義を確かなものにするとともに、仲間の存在を認めていける活動を数多く取り入れていきたい。

教材の工夫

本単元では、まず挿絵を子どもたちに提示するところから始めたい。挿絵を見て話し合う中で想像をふくらませ、詩への興味を持たせたいと思う。また、実際に和太鼓を提

示し、和太鼓の音を聞いて、工夫して読むことも考えていきたい。保育園や地域で経験している子もいるので、太鼓の音を工夫して表現することは子どもたちにとって楽しい活動になると思われる。

また、詩を視写することによって一連と二連の違いに気づいたり、挿絵にはない地球の裏側の様子を描き、さまざまな着想も引き出したりしたい。

さらにグループで話し合い、グループごとに工夫した音読を発表する。「聞かせてあげたい」という相手意識を持たせたり、お互いに感想をいったりすることで「伝え合う」活動を充実させていきたいと思う。

このようにして教材文で味わった詩を読む楽しさをさらに生かすために、マイクラスなどでこの詩の作者である鶴見正夫の他の作品（あめふりくまのこ、あいうえお・ん）なども紹介したい。子どもたちが意欲的に音読に取り組める環境を作っていきたいと考えている。

指導に生かす評価の工夫

国語の授業の後に「ふり返りカード」を書かせている。簡単なものではあるが、児童はカードを書くということで自分なりに目的意識を持って音読などに取り組んでいる。

また、「大きなかぶ」を学習した時にはグループで劇を見合い、お互いのよかったところや直した方がよいところなどを言う時間をもった。簡単な相互評価ではあるが、見てもらうことで意識も高まった。

6 指導計画（全3時間配当）

時	学習内容	ねらい	関	読	書	言	評価規準
1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵を見て話し合う。 どんな読み方をするとよいかを話し合い、発表する。 和太鼓の音に合わせて音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵を見て、教材への興味を持つ。 「どきどん」などの言葉に注目させ、考えを深める。 					<ul style="list-style-type: none"> 挿絵について話し合い、興味を持って読もうとする。 語句のまとまりがわかり、はっきりした発音で読むことができる。 太鼓の音を聞いたり、動作化したりしながら、楽しく読んでいる。
2	<ul style="list-style-type: none"> 詩を視写し、気づいたことを発表する。 グループごとに音読の工夫を話し合い、練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 視写することで形式面での気づきを音読の工夫につなげていく。 前時に友達が考えた音読の工夫を思い出し、話し合う。 役割分担に沿って自分たちが考えた音読の仕方の工夫を力を合わせて楽しく練習する。 					<ul style="list-style-type: none"> 詩の中の語句を正しく書き写すことができる。 視写による気づきや挿絵を手がかりにして、自分なりに想像を広げながら読んでいる。 自分の思いを音読の工夫につなげ、楽しく音読しようとしている。 グループで音読の工夫を伝えあい、練習しようとしている。
3	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> はっきりした発音で、場面の様子を思い浮かべて読む。 練習したことを楽 					<ul style="list-style-type: none"> 想像をふくらませ、工夫することを意識しながら相手に分かるようにはっきりした発音で音読することができる。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の発表のいいところについて話し合う。 	<p>しんで堂々と発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたいことを相手に分かるように話す。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 語句や文としてのまとまりを感じたり，考えたりしている。 ・ 言葉の繰り返しやリズムを楽しんだりしている。 ・ 相手に分かるようにはっきりした発音で話すことができる。
--	--	--	--

7 本時の目標

詩を声に出して工夫しながら楽しく読むことができる。

8 準備物

和太鼓，掲示用の詩，挿絵の拡大コピー，ふり返しカード

9 本時の学習過程

学 習 活 動	支 援 (・) と 評 価 ()
<p>音読集を読む。 今日の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>「あるけ あるけ」を 楽しく読もう</p> </div> <p>「あるけ あるけ」を読む。</p> <p>挿絵を見て話し合う。</p> <p>「あるけ あるけ」を音読する。</p> <p>どんな読み方をするとよいか発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分がいいと思う読み方で読む。 ・ 友達の読み方でよいところや真似したいところを考える。 <p>和太鼓の音を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に太鼓のリズムで読んでみて先ほどの考えがぴったりくるか話し合う。 <p>工夫したことをもとに「あるけあるけ」を全員で音読する。 今日の学習を振り返り，ふり返しカードを書く。 次時の予告をする。</p>	<p>支援 (・) と 評 価 ()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読みながら自分なりに想像できる時間を取る。 ・ なるべくたくさんの児童の思いを取り上げ，想いをふくらませる。 ・ 挿絵の中の子どもたちの様子，表情などにも着目させる。 ・ 口を大きく動かしてはっきり読ませ，言葉を意識させる。 ・ 児童の読み方に注目させ，いろいろな読み方ができることに気づかせる。 ・ 模造紙に書き込みをしながら，叙述に注目できるようにする。 ・ 太鼓のリズムと言葉が合うようなたたき方に気を付ける。 ・ 考えが出にくい場合には，声の大きさや読む速さ，強弱などにも注目させてアドバイスする。 ・ 動作をつけてもよいことを伝える。 <p>読み方を工夫し，楽しみながら音読することができたか。 (関 ・ 観 察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次の時間にグループで発表することを伝える。